小中連携

小学校での学びを引き継ぐ小中連携パート

酒井 英樹
（信州大学）

令和7年度版*NEW CROWN* 小中連携パート

Starter 1〜4
やり取りを通しておたがいを知る

トピック
1 好きなもの
2 好きな人物
3 一日の生活
4 行きたい場所

Starter 5〜6
音・文字をふり返る

My Dictionary
絵辞典

4〜5月 **Lesson 1** About Me → **Words & Sounds 1**

6月〜 **Lesson 2** My Hero → **Words & Sounds 2**

6〜7月 **Lesson 3** My Treasure

7月〜 **Lesson 4** My Summer Plans

接続期の改訂のポイント

令和7年度版*NEW CROWN*（以下、*07NC*）の小中連携パートは、1年のStarter 1〜6、My Dictionary、Lesson 1〜4、Words & Soundsから構成される。小学校での学びを引き継ぎながら、発展的に中学校の学びにつなげていく役割を担っている。改訂のポイントは、次の通りである。

①小学校での学び方を活かした構成になっている

小学校の外国語活動・外国語では、「聞くこと」と「話すこと」を中心として、簡単な語句や基本的な表現を用いて聞いたり、やり取りしたり、発表したりする力を身につけてくる。教師のモデルや教科書の音声・動画を視聴しながら、語句や表現の意味を把握したり、その使い方に気づいたりする。そして、自分のことなどについて話す活動を行っている。

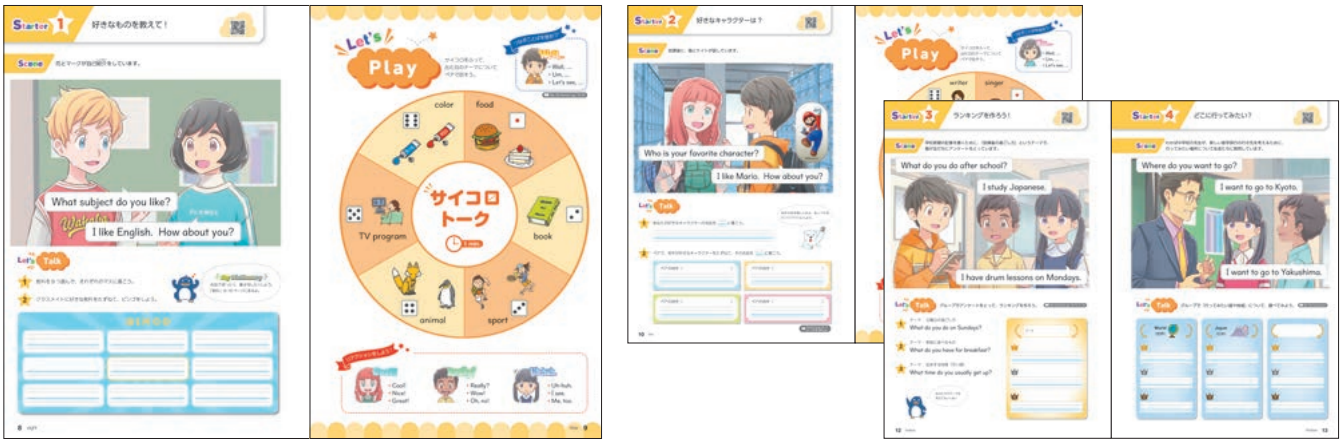
また、「読むこと」と「書くこと」については、英語の大文字と小文字を書けるように指導されているほか、音声などで十分に慣れ親しんだ語句や表現を読んだり、書き写したり、例文を参考に文を書くという言語活動を体験してくる。つまり、「聞くこと」から「話すこと」、「音声」から「文字」という流れで英語を学んでくる。この小学校での学び方を*07NC*の小中連携パートにおいても引き継ぎ、すべてのコーナーにおいて、まず「聞くこと」から始め、自分のことなどについてやり取りする活動につなげている。また、Lessonにおいては、そこからさらに読んだり、書いたりする活動へと発展させている。この構成により、中学校の学びに向けてスムーズに進められるように設計している。

②小学校で学ぶ語句や表現を網羅的に扱っている

語彙に関しては、小学校では600〜700語程度を指導することになっている。この語彙には、聞いたり、読んだりして意味が理解できる「受容語彙」と、話したり、書いたりして表現できる「発信語彙」の両方を含む。生徒によっては、聞けばわかる語であっても、発話する際に使えない語もある。*07NC*の小中連携パートでは、小学校での学びをふり返りながら、くり返し取り組めるようになっているため、生徒の言語活動の様子から、生徒がどの程度の語彙力があるのかを判断し、小学校での学びを踏まえて指導することができる。

表現に関しては、1年生の1学期までの間に、小学校で扱われる表現に少なくとも一度はふれられるように配慮している。そのため、Lesson 4では、過去を表す表現（I went to [ate / saw / enjoyed] ....）や、したいことを表す表現（I want to go to [eat / see] ....）を扱っているが、この段階ではチャンクとしてこれらの表現をふり返ることを意図しており、過去形やto不定詞はそれぞれ1年Lesson 7〜8、2年Lesson 3などで改めて指導する。

Starter 1〜4：やり取りを通しておたがいのことを知り合う



Starter 1〜4には、「たくさんの人と話して、おたがいのことを知ろう！」という目的が設定されている。生徒がクラスメイトと出会い、英語を使って楽しくやり取りし、おたがいのことをより詳しく知ることを通して、小学校での学びをふり返る。トークテーマは、生徒が意欲的に会話を進められるようなものを選択している。また、ビンゴ、サイコロトーク、ランキング作りといったゲーム要素のあるアクティビティーを用意した。これらのやり取りの活動を通して、小学校でふれてきた語句や表現を思い起こさせたい。

Starter 1　好きなもの（教科、色、食べ物、スポーツ、動物など）
Starter 2　好きな人物（キャラクター、歌手、スポーツ選手など）
Starter 3　一日の生活（放課後の過ごし方、日曜日の過ごし方、朝食に食べるもの、起床する時間）
Starter 4　行ってみたい場所（国や地域）

活動に取り組みやすくするための工夫もたくさんある。例えば、活動の前にSceneが用意されているが、教科書のキャラクターたちが同じテーマで会話しているのを聞くことができる。また、サイコロトークでは、テーマが文字とイラストで提示されており、何について話すのか推測できるようにしている。加えて、小学校でも使っていたつなぎことば（Well. / Um. / Let's see.）やあいづち表現（Cool! / Really? / Uh-huh.など）をいつでも確認できるように配置している。

なお、実際にこれらの活動を行ってみると、小学校で使っていた教科書や、小学校で経験してきた言語活動によって、生徒の習熟の程度に違いが見られるかもしれない。聞けばわかる語句や表現であっても、いざ話そうとすると、すらすら言えないものもあるだろう。目の前の生徒たちにどのような支援が必要かを考え、判断するためにこのStarterを活用してほしい。

また、Starter 1〜4はやり取りを中心とした活動だが、アクティビティーの一環として、My Dictionaryから単語を書き写したり、人の名前を書いたりするところがある。そのときの生徒たちの様子や、実際に書いたものを見て、Starter 5〜6での文字指導に生かしたい。

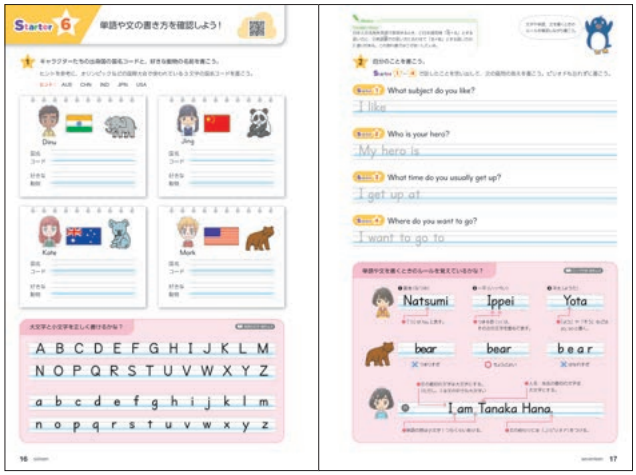
My Dictionary：小学校で定番の絵辞典を中学校でも

My Dictionaryでは、「教科」「食べ物」「スポーツ」「動物」などのカテゴリーごとに、語句・表現がイラストとともに提示されている。小学校の教科書で使用頻度の高いものや、小中連携パート（StarterやLesson 1〜4）で使える語句・表現を約400個選んでいる。

Starterだけでなく、Lessonでの学びに入ったあともくり返し活用できるように、紙面の外側を10mmカットして指に引っかかりやすくしている。これらの語句や表現は、この段階で一度に、また短期間で学習するのではなく、1年間を通してくり返し活用する中で身につけられるようにしたい。

なお、小学校の絵辞典では、書き写す際に文字の高さや長さを意識させやすくするために、単語を4線上に配置していることが多い。このMy Dictionaryではあえて4線を入れずに表示し、生徒が書き写したりするときの様子から実態を把握し、適宜、その後の文字指導につなげられるようにしている。

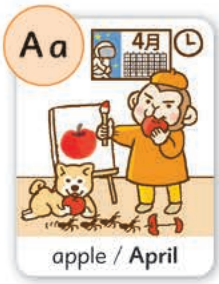
Starter 5〜6：音と文字の関係や、英語の書き方をふり返る



Starter 5

小学校では、英語の基本的な音（子音や母音、強勢など）を指導することになっている。評価はしなくてよいことになっているが、音を聞いてどの文字であるか判断したり、文字を見てその読み方（名称読み）を発音したりする力を身につけてくる。Starter 5では、アルファベットの一覧や絵カード、チャンツなどを使って、英語の音と文字をふり返る。このページを通して、生徒がどの程度英語の音と文字について理解しているかをみることができる。

絵カードのイラストには、下部に表記している単語の他に、その文字で始まる語が隠れている。例えば、A-aであれば、appleとApril以外に、ant, astronautなども描かれている。これらの単語を探す中で、小学校で学んだ語彙を復習しつつ、つづりに意識を向けさせられるとよい。



また、Starter 5に文字で示している単語だけで、英語の基本的な子音（/ʒ/以外の子音）、母音（単母音、二重母音など）をカバーしているので、生徒が単語をどのように発音するのかをよく聞き、基本的な音声の定着状況を把握するとよい。その際、巻末資料のSounds「つづりと発音」も活用できる。また、英語の音については、各Lessonの脚注にも発音のポイントを示しているため、本課に入ってからも継続的に指導していきたい。

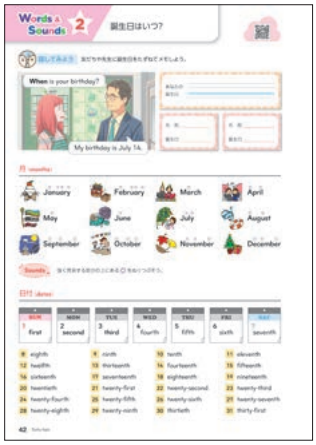
Starter 6

Starter 6では、単語や文の書き方を確認する。左ページでは、大文字と小文字を書く活動を設定しているが、機械的な練習活動とならないように、キャラクターの自己紹介を聞いて、出身地の国名コードと好きな動物を書かせる。右ページは、Starter 1〜4で話した話題について、なぞり書きをしたり、単語を書き写したりしながら文を書く。小学校では、4線上に大文字と小文字を書くことができるように指導しているが、実際に習得するまでに時間がかかるため、個人差も大きい。このページを活用するときは、ペンマンシップとあわせて、目の前の生徒がどの程度文字を書くことを身につけているかを見取るとよい。

Words & Sounds

Lesson 1 , 2のあとに、Words & Soundsというページが2つ設定されている。小学校で、数を尋ねたり、誕生日を伝え合ったりする活動を経験してくるが、How many ...?やWhen is ...?といった表現を、ここで改めて「数」「月名」「日付」といった語句と一緒にふり返る。特に「数」については、カタカナで馴染みのあるものも多いため、日本語と英語の音声の違いに留意しながら確認したい。

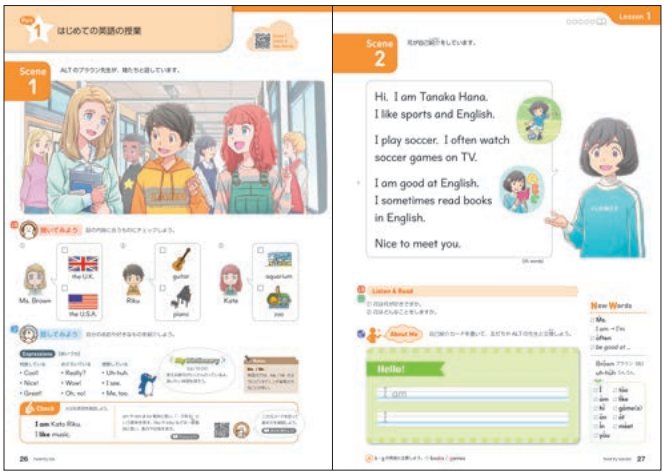
なお、小学校では、自分の誕生日を話す機会はあるが、ほかの日付を言えるようになっているかは個人差がある。つづりとあわせて、このページで確認できるとよい。また、買い物の場面などで“I want tomatoes, please.”と言われたあとに“How many?”と尋ねるような活動を行っているが、How manyに続く名詞を複数形にすることや、後ろに疑問文を続けるときの文の形は身についていないかもしれない。ここで改めて指導できるとよい。



Lesson 1〜4：中学校の学びにスムーズにつなぐ

とびら

Part 1〜3



Goal Activity

*07NC*では、Lesson 1以降は本課にあたるが、ここでも小学校での学びをふり返りながら、中学校の学びにスムーズにつなぐための配慮が、構成や指導手順などさまざまなところに表れている。

小学校の学びを整理しながら、基本文を導入する

小学校ではさまざまな表現にふれているが、それを明示的に学ぶわけではない。Partの左ページでは、そんな小学校でふれてきた表現を整理し、中学校の学びにつなぐ。

「聞いてみよう」では、基本文が使われている音声を3つ聞いて、内容にあてはまるイラストを選択する。例えば、Lesson 1 Part 1の基本文は、be動詞と一般動詞の肯定文である。どちらも小学校でたくさん使ってきているが、それぞれの形や意味、機能の違いを明示的に学んでいるわけではない。中学校ではこれを整理し、区別して使えるようになる必要がある。ここの「聞いてみよう」では、小学校で慣れ親しんだ表現がふんだんに使われた自己紹介を聞くが、3つの音声のうち、①はbe動詞だけを、②は一般動詞だけを、③は両方を使ったスクリプトになっており、be動詞と一般動詞が自然に使われている文脈から、それぞれの共通点や違いに着目させやすくしている。

Lesson 1 Part 1 Scene 1「聞いてみよう」スクリプト

① *Ms. Brown:* Hi. I am Lucy Brown. I am your English teacher. I am from the U.K. Nice to meet you.
Riku: Nice to meet you, too.

② *Riku:* I am Kato Riku. Call me Riku. I like music. I play the guitar. I practice it every day.
Ms. Brown: Oh, you are a guitarist? Cool!

③ *Kate:* I am Katherine Jones. Call me Kate. I am from Australia. I like animals. I often go to the zoo.
Ms. Brown: Nice! I like animals, too.

「話してみよう」では、基本文を導入する前に、それを使うようなトークテーマで生徒たちにやり取りさせる。そのときの生徒の発話を整理してから基本文の導入につなぐこともできる。

音声で慣れ親しんだ表現を「読む」ことから始める

小学校では、音声で十分に慣れ親しんだ語句・表現を読むことは経験しているが、初見の英文を読むということはほとんどない。そのため、接続期の間は、「聞いてみよう」の音声と類似した表現で書かれた英文を読むことから始める。

Lesson 1 Part 1の「聞いてみよう」では先述の通り、3人のキャラクターが自己紹介をしているが、右ページのScene 2では、4人めのキャラクターの自己紹介を読む。I like ....などのあとに続く個々の単語は異なるが、文の流れや多くの表現はスクリプトの英語と重なる。英文を読むことに抵抗がある生徒に対しては、「聞いてみよう」の流れで本文の音声をたくさん聞かせてから、読む活動に移行することも考えられるだろう。

小学校で経験した言語活動を、中学校の学びを経てもう一度

Lesson末には、Goal Activityが設定されている。接続期のLesson 1〜4では、「自己紹介」「人物紹介」など小学校で経験している活動に類似したものを配置している。これは、中学校の学びを経て、表現力などが向上していることを生徒たちが実感できるようにするためである。

小学校の多くの教科書がそうであるように、*07NC*も単元全体がGoal Activityに向けて構成されている。「とびら」では、Sceneの音声を聞いて場面やトピックを導入したあとに、Small Talkを行う。このSmall Talkには、Goal Activityと同じトークテーマが設定されており、まずは既習の語句・表現を使いながらやり取りする。ここでのパフォーマンスをふまえて、Goal Activityに向けて何ができるようになりたいか、どんなことを伝えられるようになりたいかを生徒に考えさせ、目的意識を持って学ぶように促す。また、各Partの最後にAbout Meという活動があるが、そこでは基本文を使って自分のことについて1文を書く。Lessonによっては、ここで書き溜めたことがGoal Activityに活用できる。